

宣 言

我が日本海員組合はこゝに第十二回年度大會を迎へた。

顧みれば我等は大正十年五月七日の輝かしき組合創立のその當日より、一方に於ては、終始一貫資本主義の搾取迫害と戦ふと共に、他方に於ては、組合創立以來の指導精神たる健全なる労働組合主義を確立する爲め、共産主義、ファツシズム等と戦ひつゝ今日に至つた。

今や自壊自滅の最後の段階に到達せる資本主義體制は、その延命的退却を掩護する煙幕として、曾ては家族主義を流用し、労働協調を力説し、産業合理化を強調せる如く、今日は「非常時」を國家的乃至國民的に援用する事によつて、その不誠實と、無能と、無定見とを隠蔽せんとして居る。

我國中堅國民府たる労働階級の政治的、經濟的乃至社會的生活が今や正に破産に瀕しつゝあるこの非常時の現狀に對し、我國資本主義の政治的代辯者たる政府及議會が、我等多年の要望たる労働組合法、失業保險制度、労働時間制、最低賃銀法等の社會立法乃至は社會施設を制定せざる事、これを立證して餘りあるではないか。

しかも奸黠老獪なる彼等は、我等の反資本主義的態度を妨害すべく、或は國家主義乃至日本主義に名を藉るファツショ便衣隊を我等の陣營に放ち、或は會社組合其他各種の御用團體を創設援助する事によつて、健全なる労働運動の發達を阻止せんと狂奔しつゝある。

我等の支持する日本労働組合會議と鋭く對立する全國産業團體聯合會が、國際聯盟脱退を契機として國民間に揚起せる國家主義的感情を利用し、國際労働機關を脱退する事によつて労働條件を低悪化せんとしつゝあるが如き、臨終期に於ける資本主義がその餘命を保つ爲めに如何に必死的努力を傾けつゝあるかを物語るものである。

これを海運及海上労働の象面に見んか。最近斯界の大問題たりし外船輸入事件が、政府部内に於ける意見の不一致を招來せるのみか、これにより失業船員を救済すべしと豪語せる政府一部當局が、その聲明を裏切りつゝある船主に對し、何等その非違を是正監督し得ざる醜態を示しつゝある一事、海運界に内在する萬般の矛盾と不合理の片鱗を暴露せるものと云ふべきである。

今や我等は多事多難なりし一年を送り、更に一層困難と危機に充てる一年を迎へんとするに當り、我等は親愛なる組合員諸君と共に左の如く誓はんとす。

我等は毅然たる階級的信念の上に立ち、過去十二年間に亘り我等の執り來れる健全なる労働組合主義を死守し、内に向つては其の労働條件の改善に向つて邁進すると共に、外に向つては日本労働組合會議、國際労働機關を支持する事によつて、全世界の被搾取階級、被支配階級の組織化と協力化に向つて精進すべき事を。

昭和八年五月七日

日本海員組合